

# 1,000人が笑う村

nishimera village with the 1000 smile



第3期 令和8年度～令和12年度

西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和8年3月



## I 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定にあたって

本総合戦略は、西米良村が直面する人口減少や少子高齢化の進行、地域経済の縮小などの課題に的確に対応し、将来にわたり持続可能な地域を形成していくことを目的として策定しました。策定にあたっては、単なる数値目標の達成にとどまらず、住民一人ひとりが将来に希望を持ち、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現を基本理念としています。

## II まち・ひと・しごと創生総合戦略の 位置づけと対象期間

第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略は、上位計画である第6次長期総合計画(R3～R12)の後期5年間(R8～R12)のアクションプランとして、その他の計画との整合を図りつつ、地域の実情に即した具体的な施策を体系的に整理し、実行につなげるための指針として位置づけるものです。



## INDEX

- p2 … **I 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたって**  
**II まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけと対象期間**
- p4 … **西米良村長 × 関司直也 教授 対談**  
**「1,000人が笑う村」が描く、これからの地域のかたち**
- p7 … **基本方針 西米良村 4つの柱**
- p8 … **村民が考える村の自慢** 西米良村の観光座談会
- p12 … **西米良村ゆず座談会**
- p14 … **村民アンケート 1 西米良村のゆずについて**
- p16 … **村民アンケート 2 総合戦略策定に係る内容について**
- p19 … **I 基本目標** 村民幸福度の高い持続可能な村づくり
- p21 … **II 各政策分野における基本的方向性と具体的施策と数値目標**
- p23 …… **政策分野 1 人口問題** 地域を元気にする人口問題対策
- p27 …… **政策分野 2 産 業** 風土を活かした力強い産業づくり
- p33 …… **政策分野 3 生 活** 暮らしやすさ=いつまでも安心して  
住み続けられる村であること

## 西米良村長 × 関司直也 教授 対談

# 「1,000人が笑う村」が描く、 これからの地域のかたち



西米良村長  
黒木 竜二

**Q1.** まずは、西米良村のコミュニティの強さについてお聞きします。選挙投票率が全国トップクラスだと伺いましたが？

### 村長

投票率が9割を超え、日本一になったことがあります。これは単に制度への関心というより、「自分たちの村をどうしていくか」を村民一人ひとりが自分事として考えている結果だと思っています。昔から地域内のつながりが強く、顔の見える関係が今も息づいています。

### 関司

人口の数そのものよりも、そこで暮らす人たちの「心の持ち方」や「地域への向き合い方」が重要です。「1,000人が笑う村」というコンセプトは、ウェルビーイングやソーシャル・インクルージョン（社会的包摂/一人も取り残さない社会）といった、普遍的な価値を小さな村で実践しようとする、非常に志の高い挑戦だと感じます。

### 村長

村を支えるには一定の人数は必要ですが、頭数がそろっても、そこに意志がなければ村は動きません。だからこそ、活力や生きがい、目標をどう循環させていくかを大切にしています。

※左から関司直也・西米良村長 黒木竜二



**Q2.** 西米良村の農林業は、独自の取り組みが多い印象ですが、どのように取り組んでいますか？

### 村長

村の約95%が森林です。江戸時代から明治時代に移り変わる版籍奉還時に、米良領の殿様「菊池則忠公」が領土を村民に分け与えた経緯があり、村民は領土や文化を守るという強い思いを持っています。人口密度3.6人/kmという中に農業や林業の従事者が1人でも地域に入ってくると、しっかりと管理が行き届き、「色づいてくる」という考え方も必要で、やる気のある人たちが加わるのが重要だと思っています。地の利を活かし、多数生息する鹿・猪を活用したジビエ施設を建設し、「命を循環させる」取り組みを行っています。

### 図司

急峻な山を整地した「柚子団地」がありますが、限られた人手で土地を守るためには、選択と集中が不可欠ですね。農地や山林もグラデーションで考える必要があると思います。

### 村長

平坦で条件の良いところ、厳しいところを分け、段階的に活用しています。柚子団地には、生産者が4軒あり、スマート農業を導入し、急峻な場所でも収穫できるような道や農地の整備を行っています。また、イセイモやコンニャク、山菜など、在来の食文化も村の魅力です。



**Q3.** 担い手づくりについて教えてください。

### 村長

後継者は家族に限らず、きっかけ作りが大切だと思っています。ワーキングホリデーも、観光ではなく「働き、実感する」場にしていきたいと考え、西米良村のファンになってくれた人が、技術や想いを引き継ぐ形も必要です。



### 図司

中山間地域の暮らしは、一つの仕事で完結しません。複数のなりわいを組み合わせる生活を、事前に丁寧に共有することが大切です。オンラインでの顔合わせなど、無理のない関係づくりも有効ですね。

### 図司 直也

法政大学現代福祉学部教授。専門は地域政策・地域づくり・ローカルガバナンス。自治体、大学、地域団体の連携による実践的な地域再生や人材育成に全国各地で携わる。住民主体の地域運営、関係人口の創出、若者や外部人材の参画を重視し、現場に寄り添う伴走型支援に定評がある。

- ・第6次西米良村長期総合計画審議委員
- ・第2期西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略評価委員会

西米良村の文化や暮らしの魅力がわかる動画チャンネル▶

**西米良遺産** 西米良村長 × 図司教授

Youtubeの再生リストから詳しい対談内容を閲覧できます



Q4. 観光についての考え方も変化しているようですが、どのように考えていますか？

村長

これまでは「来て、もてなして、帰ってもらう」観光でしたが、今は「関係人口」をどう生むかが軸です。村内の拠点施設を活用し、「関係人口1,000人創出事業」を観光施策の柱に据えています。村のファンとなり、将来的に関わり続けてくれる人を育てることを目的としています。具体的には大学などと連携し、学生がフィールドを体験する滞在型プログラムを実施し、自然や暮らしを五感で感じてもらうことで、将来につながる記憶と関係性を育みます。こうした取り組みを広く伝えるため、魅力ある商品づくりと情報発信を重視しています。

図司

西米良村には「ここでしかできない体験」が、すでにアイコンとして存在しています。大切なのは、その先のステップへどうつなげるかです。

村長

観光の本質として、思いがけないものや言葉、人との関わりや特定の場面（シチュエーション）が強く印象に残り、それに感動して西米良村へ移り住む人も少なくないと思います。今後は、挨拶や笑顔といった日常の振る舞いを通して、「西米良村民はこういう人だ」という印象を意図的に伝える観光が重要であり、それこそが観光の肝です。こうした人々を活かし、認め合い助け合うことが、交流人口の醍醐味だと考えています。



Q5. 最後に、伝統文化についてお話しください。

村長

西米良村には様々な歴史がありますが、「米良の神楽」は国の文化財に指定されました。神楽は村の誇りであり、世代を超えた共通言語です。担い手不足という課題はありますが、連携し、形を少しずつ変えながら守っていくことが重要だと思っています。「語り部」についても、西米良村の昔話や「カリコボース」伝承など、たくさんものがあり、今では小学生が話を覚えて披露する場面もあり、昔の生活習慣を学びにするなど、非常にためになっています。歴史、伝統、文化は次の世代を担う教育、コミュニティにも同様に重要であると思っています。

図司

伝統とは、壊すものではなく、時代に合わせて編み直すものです。地域に根差したローカルイノベーションこそ、未来への鍵だと感じます。

村長

日々の暮らしを前向きに楽しむ姿勢こそが、村の魅力を形づくりまします。村に笑顔があふれていれば、人は自然と集まり、関係は広がっていくと考えています。

## ●基本方針

# 西米良村 4つの柱

西米良村では基本方針のシンボルマークとして村章の「米」の字を使用し、これを軸として村づくりを行っています。横軸を時間軸とし、過去・現在・未来、縦軸を人口1,000人という人軸とし、4つの米粒を次の4つの柱に位置付けています。

1. 活力ある村づくり

2. 人口減少を緩やかにする人づくり

3. 幸せ度の高い村づくり

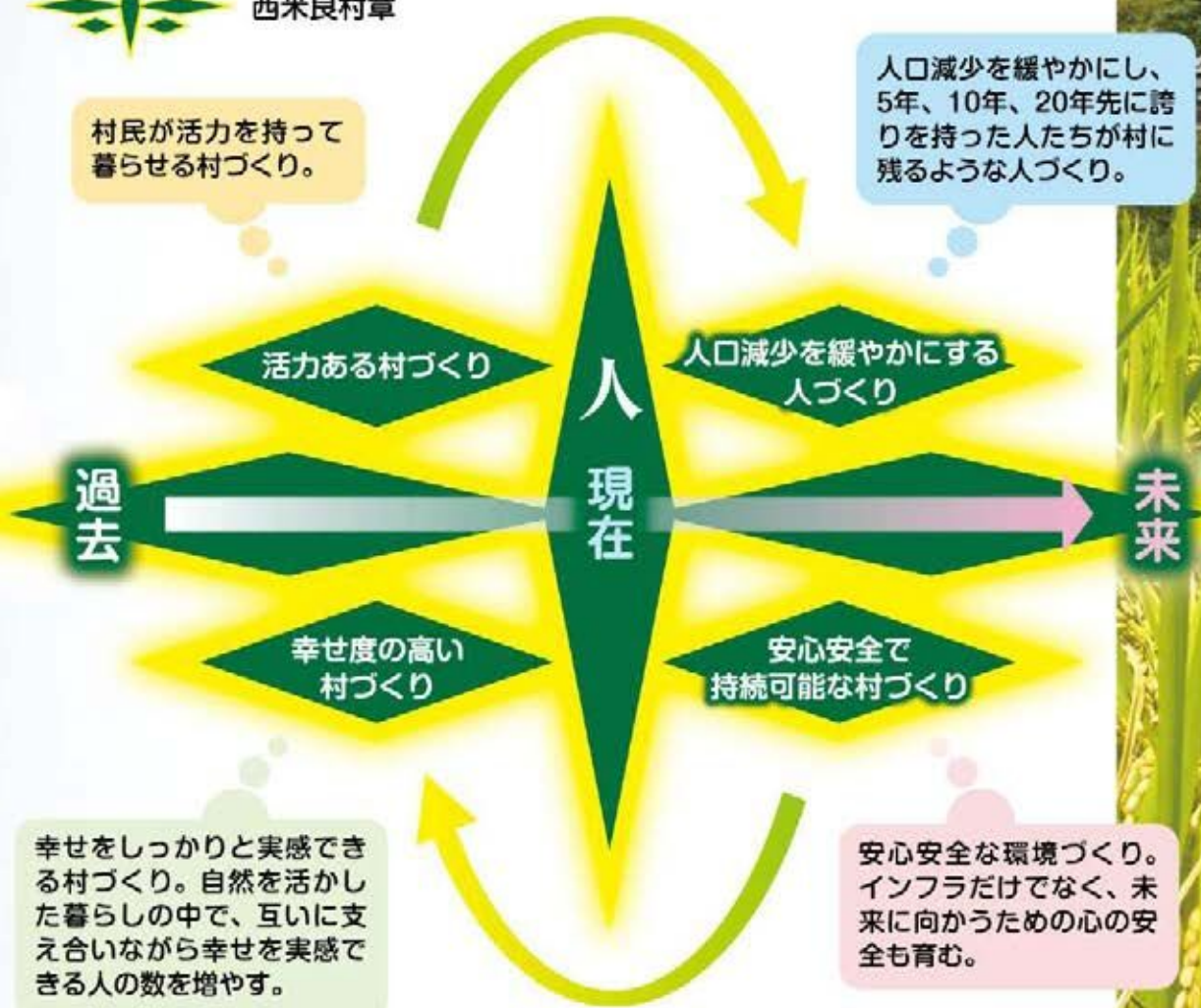
4. 安心安全で持続可能な村づくり



西米良村章

村民が活力を持って暮らせる村づくり。

人口減少を緩やかにし、5年、10年、20年先に誇りを持った人たちが村に残るような人づくり。



幸せをしっかりと実感できる村づくり。自然を活かした暮らしの中で、互いに支え合いながら幸せを実感できる人の数を増やす。

安心安全な環境づくり。インフラだけでなく、未来に向かうための心の安全も育む。

村民の皆様が活力を見出し、中山間地域の厳しい環境の中でも逞しく生きていける人材・人づくりを行います。都市部とは違う強いコミュニティのなかで、圧倒的な自然資本とともに安心して安全な環境づくりに最善を尽くし、村民一人ひとりが日常の幸せを実感できる村づくりに努めます。





# 村民が考える 村の自慢

西米良村の観光座談会

西米良村の文化や暮らしの魅力がわかる動画チャンネル  
西米良遺産 村民が考える村の自慢

Youtube の再生リストから詳しい対談内容を開覧できます





2025年9月18日に行われた西米良村の観光座談会「村民が考える村の自慢」では、西米良村の観光やツーリズムに携わる方たちを中心に、インバウンド増加と大都市のオーバーツーリズムを背景に、「本物の日本体験」や日本人との交流を求める旅行者が地方へ目を向け始めている現状を踏まえ、西米良村として“誰に、何を、どう届けるか”を整理し、受入体制と戦略を整える必要性が共有された。

意見交換では、村の魅力と今後の方向性が多角的に語られた。長年、村の観光地域づくりを続ける黒木敬介氏は、地域づくりは短期で成果が出にくいからこそ「継続」が必要であり、それぞれが意識をもって小さな負担を持ち寄り、村民一丸となって進める協働姿勢が重要だと述べた。村の面白さを再発見して発信し、観光客が楽しめる工夫を重ねること、さらに“おもてなし”の担い手育成が欠かせないことを強調し、移住検討者が食の魅力や子どもの遊び環境に感動した話を語り、食や体験が村の強力な訴求点になるとした。



教育長の野添和洋氏は、豊かな自然の中で育つ子どもの姿こそ村の価値であり、子どもが地域を誇れる教育が交流人口・関係人口の土台になると話した。宮崎大学との連携による地域探究学習の充実、神楽・民話・民謡などの伝統文化の継承、剣道や陸上等のスポーツ振興という3施策で、地域理解と活力の循環を生みたいと語った。

# 村民が考える 村の自慢

西米良村の観光座談会



参加者は、西米良村の絆の強さに着目。共同体の価値として、「てごり（助け合いの精神）」が複数の参加者から語られた。農林振興課長の中武賢治氏は、時代とともに変化しても失ってはいけないのが“てごり”であり、若い世代で意識が薄れている懸念を示し、大人が絆の強さを示して再認識を促す必要があると提起。(株)アイロード所長の黒木敏浩氏も、誰かの呼びかけに周囲が「お前が言うなら」と協力する風土が西米良の強みで、人口が少なくても協力者の比率が高ければ大きな推進力になると述べた一方、昔の作業機会が減ってその精神が薄れつつある点や、Uターン世代には旧来のつながりがない場合もあるため、強要ではなく相互理解の中で協働を再構築すべきだと整理した。



観光資源面では、「神楽」、「滝」、「雲海」、「星空」、「季節の花々」、「食」が具体的に挙げられた。神楽保存会の中武広幸氏は、神楽を月1回、小学生に教え、子どもを媒介に文化が家庭や地域へ波及する循環を狙うなど、地道な継承活動が地域活性化につながるとした。「語り部の会」会長の佐伯厚子氏は、日々の暮らしの中にある季節の移ろい、山菜、花、川魚の気配、街灯が少ないがゆえの星空など、住むことで味わえる“贅沢な時間”を語り、観光資源の核が日常の自然体験にあることを語った。





食と生産の価値づけも重要テーマだった。(一社)おがわ作小屋村の上米良秀俊氏は、作小屋村に年間1万~1万5千人が訪れる中、「美味しかった」「また来る」と言って帰る瞬間が何より嬉しい。そしてそのためには、食材づくり・料理・自然の手入れまで含めた“人づくり”が不可欠だと強調。高齢化で担い手が減る状況を踏まえ、若い世代に小川・西米良の良さと食の魅力を伝えられる人材育成が急務と熱く語られた。いとまき倶楽部の中武三和子氏は、伝統野菜や旬の食材を活かした加工や弁当需要の増加などについて語った。上米良みな子氏は、信頼できる地元食材を中心に“対価を払って”購入する方針を語り、生産者の持続的に生産できることの重要性を示唆した。「不便な場所だから良い」と言われた経験から、“辺境性そのものの価値”を実感したと述べた。

観光商品化の具体論として、株式会社米良の庄の坂本哲也氏は温泉施設勤務時代の団体ツアー例を紹介。百菜屋~布水滝~温泉宿泊~菊池記念館という満足度の高い行程だったが、道路が狭く大型バスが通れず、団体の受け入れが難しいことが課題だと述べられた。今後は新たな見どころを掘り起こし、道路整備も含めて商品につなげたいと語った。

米良食品の牧幸洋氏は、西米良の魅力の原点は“人”であり、関わる人との距離が近く、笑って飲み、暮らす共同体の心地よさが唯一無二の魅力だと語った。「1,000人が笑う村」という言葉を作った背景として、少人数だからこそできることを考える必要性を述べ、厳しい自然環境を協力して生き抜いてきた歴史が今の文化を育んだという見立てを示した。(株)アイロードの福永栄子氏は、2008年頃からの地域づくりの歩み(四季めぐり、いとまき倶楽部との活動、各種体験・食企画など)を振り返り、いまこそ好機だと力説。虹の滝の冬の氷柱や朝日の美しさ、暗闇で聞く語り部など、体験の質が人を惹きつけると述べ、西米良村の柱として「菊池ツーリズム」をより打ち出すべきだと提案した。

むら創生課課長の吉丸和弘氏は、観光振興策である四季まつりの充実や作戦会議への参加呼びかけ、オープンチャットを活用した関係人口創出の取り組みを紹介し、情報共有と総力戦での発信を訴え、それを起点に商品や取り組みが連鎖的に生まれることを目指したいと述べ、今後も連携を呼びかけて会を締めくくった。終始、熱心な村の自慢、前向きで熱い座談会であった。





## 西米良村 座談会



令和7年10月8日、西米良村の特産品「ゆず」をテーマに「ゆず座談会」が開催された。集まったメンバーは、「いとまき倶楽部」の皆さんをはじめとする、ゆずの生産や加工、西米良村の商工や観光、移住などに関わる皆さんたちなどで、活発で有意義な語らいの場となった。

全村民を対象に実施したアンケート結果が共有され（本誌14～15ページ参照）、まずは、ひとりひとりから西米良村のゆずと暮らしの関わりについて語ってもらった。まず多く挙がった西米良のゆずの最大の特徴は「香りの良さ」であった。また、約45%の家庭にゆずの木があるという結果は、ゆずが暮らしの中に深く根付いた存在であることを示していた。

話題は日常の使い方にも及んだ。柚子胡椒は「毎月1本は使う」「冷凍して一年中使う」といった声が上がリ、味噌汁や刺身、カレー、パスタまで用途は多彩であった。霜が降りた後の黄ゆずが、柔らかく香り高く美味しいという話題になり「霜降りゆず」と命名したり、それを薄切りにし、マヨネーズや醤油で食べる“通好み”の楽しみ方なども紹介され、会場には笑いが広がった。

中でも注目を集めたのが、種から育てる希少な「実生ゆず」。実がなるまで18年を要し、樹齢100年を超える古木も残るといふ。香りの強さや長いトゲといった特徴で、一度、京都大学の研究対象にもなったことがあるという話から、「実生ゆずマップを作れないか」などといったアイデアも飛び出した。



終盤では、商品開発や担い手不足への対応、新規就農者や移住者を巻き込んだ取り組みやさ  
 なるブランド化の必要性なども語られた。

そのためにも、西米良村に来たら、どの食堂に行ってもゆずが出る、たとえば水にもゆずの香  
 りをつけるとか、付け合わせに柚子胡椒や柚子味噌を添えるなど、ゆずを基本にした観光地づくり  
 が提唱された。そのためには、各家庭のゆず料理を持ち寄るイベント構想も提案され、1月末には  
 ゆず料理大集合イベントを企画しようという話にもなった。

このようにして「西米良らしい物語を、ゆずとともに発信していこう」という思いが参加者全  
 員に共有された座談会となった。



令和8年1月22日  
**ゆず料理  
 大集合!**



● ゆずごはん



● 柚子油みそ



● 米良糸巻き大根なま酢



● ゆず釜蒸し



● 鶏唐揚げ (ゆずごしょう味)・  
 ゆず入タルタルソース



● ゆずとシーチキン  
 マヨネーズ和え



● ゆべし



● 柚子甘露煮



● ゆずヨーグルト



● 柚子団子



● ゆずマーマレード

**いとまき  
 倶楽部**

村所地区の女性たちが中心となり、伝統野菜「米良糸巻大根」や柚  
 子を使った漬物・惣菜の生産・加工・販売を行うグループです。地域  
 の自立と女性の力による地域貢献を目的に結成され、西米良特有  
 の食文化を継承・発信。商品はふるさと納税の返礼品としても支持  
 され、西米良村の地域活性化に生涯現役で取り組んでいます。



**西米良遺産 「いとまき倶楽部」インタビュー**

西米良村の文化や暮らしの  
 魅力がわかる動画チャンネル▶

Youtube の再生リストから、「いとまき倶楽部」によるゆずの魅力についての詳しいインタビューを閲覧できます





# 村民アンケート 1

## 西米良村のゆずについて

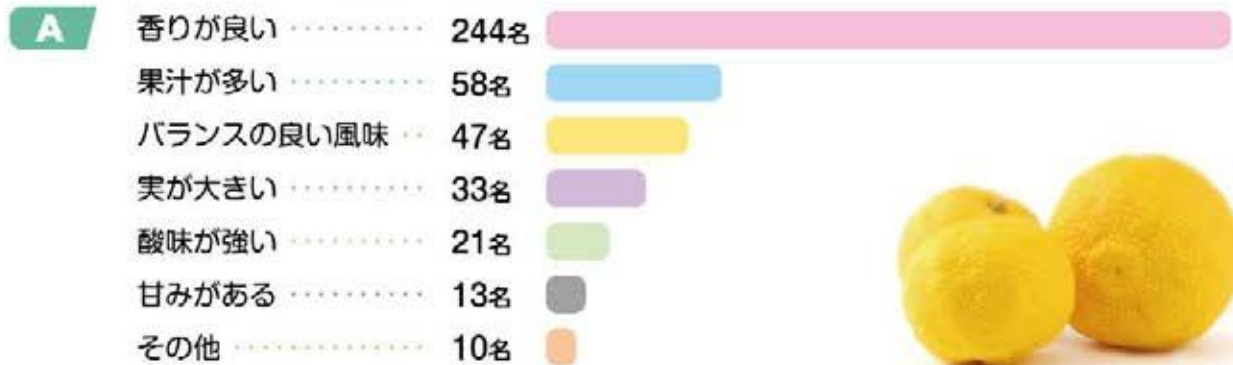
調査対象 西米良村に住民登録のある18歳以上の方全員

基準日 令和7年8月1日

回答状況 297人(男性132人、女性140人、その他25人)



### Q1 西米良村のゆずの特徴は何だと思えますか？



#### その他の回答

- 色が鮮やか
- ポン酢、ゆずごしょう。皮は乾燥して油みそに使用
- 若者も生産から出荷、加工まで行っている
- 農薬を使っていないので喜ばれる
- 柚子胡椒は土産によく利用する
- 青柚子の青臭さ、アロマ的な香り



### Q2 あなたの家にはゆずの木がありますか？



西米良村はゆずの産地としてブランド化にも取り組んでいます。  
そこで、村民の皆さんがどのようにゆずを利用しているか、また暮らしの中に  
どのようにゆずを取り入れているのか聞かせていただきました。

### Q3 あなたの自宅には「ゆずごしょう」はありますか？



### Q4 あなたの自宅に、「ゆず味噌（ゆず入り油味噌）」はありますか？



### Q5 ゆずの皮・実・果汁・種、それぞれをどのように利用していますか？

- |   |           |  |
|---|-----------|--|
| A | <b>皮</b>  | 油味噌・ゆず味噌、薬味（うどん・そうめん・汁物・鍋など）、<br>柚子胡椒マーマレード、甘露煮、乾燥させて香り付け・保存                               |
|   | <b>実</b>  | ジャム、味噌漬け、焼酎漬け・ゆず風呂   |
|   | <b>果汁</b> | 鍋物・鍋つゆ用、ポン酢・酢の物用、ドレッシング用、<br>魚料理・漬物・汁物など調味料全般、ジュース（果汁入り飲料含む）<br>ハイボール・カクテルなどお酒に使用、果実酢として利用 |
|   | <b>種</b>  | 化粧水、焼酎漬け・アルコール漬け、枕の芯など   |





# 村民アンケート 2

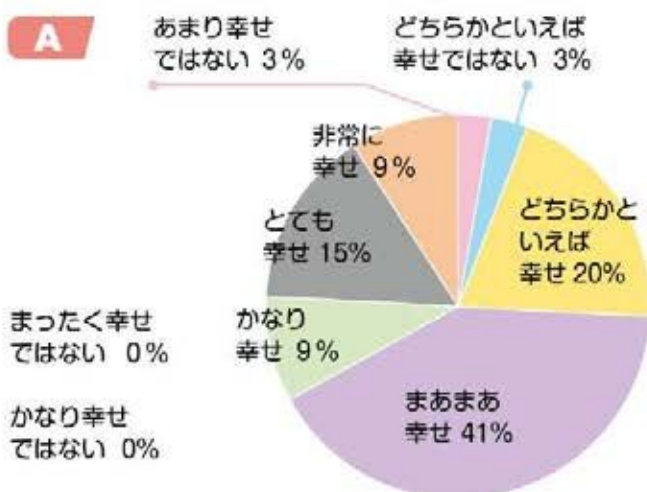
## 総合戦略策定に係る内容について

### 現状に関する意見

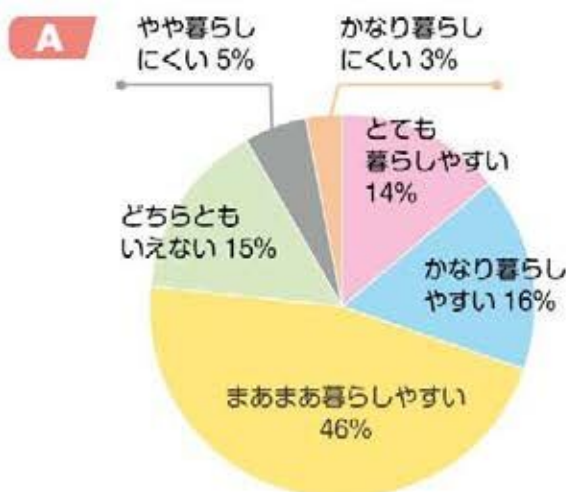
**Q1** 次のうち、あなたが「幸せだな」と感じる瞬間をすべて選んでください。



**Q2** あなたの現在の幸せ度を数字で表すと、どれくらいになりますか？



**Q3** 西米良村の「暮らしやすさ」について、どう感じていますか？



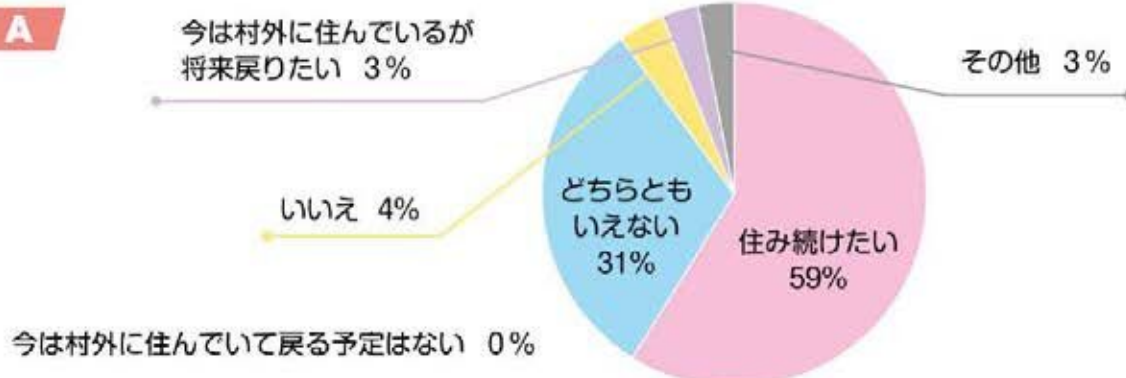
**Q4** 暮らしの中で特に困っていることがあれば書いてください。



## 西米良の未来について

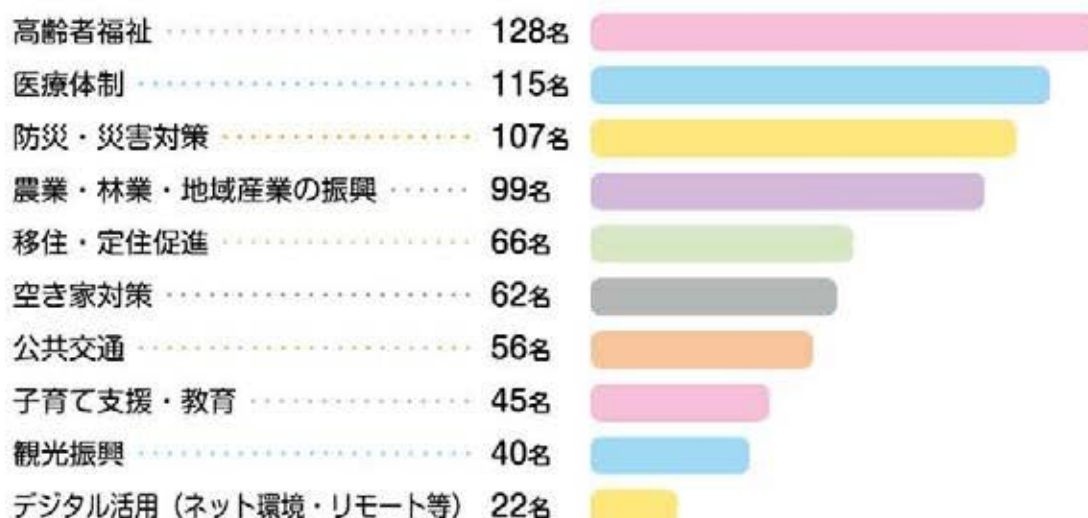
### Q5 将来も西米良村に住み続けたいですか？

A



### Q6 今後、村に「力を入れてほしい分野」を3つまで選んでください。

A



### Q7 あなたが思う「西米良らしさ」とは何ですか？

- 自然の豊かさ美しさ、山や川は宝
- 人と人とのつながり、思いやる心、隣同士の助け合い、てごりの精神
- 菊池の歴史、神楽等の伝統文化、山の生活の中での食
- 中高年が元気、子供たちがふるさととして 変えてくれる場所

### Q8 今後、西米良村にどのような変化・成長を期待しますか？

- 人口問題（子どもや若い人が増えてほしい）
- 福祉（子どもや高齢者、障がい者、労働者へ充実した幸福感を得られる村にしてほしい）
- 観光交流（村内施設の充実、自然を活かした政策）
- 産業（村有林、村産物の有効活用、企業誘致、働く場所の確保）
- 伝統文化（伝統文化を守りながらも現在の社会に合わせたものにシフト、チャレンジ）
- インフラ・交通量（改善されてきているが更に良くなるとありがたい）
- 移住（地元出身者のUターンやIターンなど）
- 教育（子ども達への教育や学習環境の充実）

持続可能な

# むらづくり



# I

## 基本目標

近年、全国的に少子高齢化が進行し、地方では人口減少が大きな課題となっています。本村においても、若い世代の流出や自然動態の影響により、人口減少が続いているのが現状です。この厳しい現実を真摯に受け止めるとともに、私たちは決して悲観することなく、豊かな自然、脈々と受け継がれてきた文化、そして互いに支え合う温かな村民の絆を何よりの誇りとし、これらを未来へと確実に引き継いでいく責任があります。

こうした中で、村の持続的な発展と村民一人ひとりの幸福を両立させるため、「村民幸福度の高い持続可能な村づくり～1,000人が笑う村～」を基本理念に掲げ、第3期西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定いたしました。本戦略は、国が推進する「地方創生」の理念を踏まえつつ、本村の実情と強みを生かしながら、西米良村ならではの未来を描くための指針となるものです。

村では、「活力ある村づくり」「人口減少を緩やかにする人づくり」「安心・安全で持続可能な村づくり」「幸せ度の高い村づくり」の4つの柱を村づくりの基本方針として掲げています。これらを相互に関連づけながら施作体系を整理し、本戦略では3つの政策分野（人口問題・産業・生活）に基づき、地域を元気にする人口問題対策、風土を活かした力強い産業づくり、未来へつなぐ自然環境の維持・保全、村民の健康づくりと暮らしやすい環境整備、郷土を愛し次代を担う人を育む教育・文化の振興、豊かな暮らしを支える基盤整備、そして安心・安全で自立した村づくりなど、具体的な施策として展開します。

また、デジタル技術（DX）の活用を積極的に進め、人口減少が進む中でも持続可能な村づくりを目指します。「デジタルの充実によるアナログ（人と人のつながり）の充実」を掲げ、利便性と人の温かさが両立する地域社会の実現に努めます。

さらに、すべての施策においては、「その施策で村民が笑顔（幸せ）になれるか」「その施策が持続可能な村づくりにつながるか」「その施策が村にかかわってくれる人（関係人口）を増やすことにつながるか」という3つの視点を重視しています。これらの視点を常に意識し、短期的な成果にとどまらず、次世代へと続く地域の力を育む政策を進めていきます。

「1,000人が笑う村」という言葉には、単に人口の数を意味するのではなく、一人ひとりが誇りを持ち、安心して暮らし、心から笑い合える村でありたいという願いが込められています。村民の皆さまと手を取り合い、そして村の外から温かく見守り、支えてくださる関係人口の皆さまとともに、笑顔と活力に満ちた西米良村を未来へとつなげていきます。

# 1000人が笑う村

村民幸福度の高い持続可能な村づくり

基本  
目標

## 【人口予測分析】

本村の現状のままでの将来人口の推計結果を以下に示します。この推計は2020年国勢調査時の人口等を基にした国立社会保障人口問題研究所の都道府県・市区町村別の男女年齢5歳階級別将来推計人口（2023年推計）です。

## 【将来人口推計】



2015年推計と2020年推計を比較すると、総人口は2015年推計よりもゆるやかな減少となっています。これは、これまで総合戦略において人口減少対策を講じて来たある程度の成果と言えますが、0～14歳の年少人口は今後急激に減少すると予測されます。



## **各政策分野における基本的方向性と 具体的施策と数値目標**

---

子どもたちも元気

# 明るい未来



# ともに築く明るい未来

## 地域を元気にする人口問題対策

### 政策分野 1

#### 人口問題

人口減少が避けられない今、「1,000」という数字は私たちの志の数です。出生や転入の確保、新規創業の促進を重点施策としつつ、関係人口の創出により、実人口と村を想う人を合わせた「笑顔の総量」を1,000人に維持します。「1,000人が笑う村」の旗印のもと、住民の幸福度を高め、西米良村に関わるすべての人が自分らしく笑える、持続可能な地域づくりを推進します。

数値目標	基準値 (2025)	目標値 (2030)
転入者総数 (直近5年間の合計)	236人 (R2～R6年度合計)	250人 (R8～R12年度合計)
出生者数	32人 (R2～R6合計)	35人 (R8～R12年度合計)
ふるさと住民登録者数	0人	150人



#### 1 移住定住対策、関係人口の創出や地域コミュニティの充実

- Uターン者の増加を目指します。
- 子ども達に村の仕事への関心が高まる取り組みを実施します。
- 仕事、自己実現、地域コミュニティとの関わり等の観点から西米良で暮らす意味や価値を整理し、移住者に向け発信していきます。
- お試し滞在住宅の整備など、西米良村に移住しやすい環境を整えます。
- 空き家の利活用を図り、ワーケーションや企業誘致につなげます。
- 村に定住したくなる魅力と必要な職場を作り出す取り組みを推進します。

政策分野 1

人口  
問題

- 村営住宅の整備・充実を図ります。
- 事業所の寮や住宅建設等へ支援します。
- 関係人口の創出に努め、本村との多種多様なつながりを大切にします。
- 村民の結婚対策を推進していきます。
- 他の分野で推進する出産・子育て支援、教育環境や医療環境向上の対策により住環境の向上を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
お付き合い 対策事業	むら創生課	マッチング数	0回	5組
	「結婚を良いもの」と思えるイメージづくりや勉強会の開催、価値観の合う人との出会える場づくりを推進する。			
お試し滞在住宅の 活用	すまいる課	お試し滞在住宅稼働日数	40日	100日
	西米良村の暮らしを体験し、移住に繋げるため、お試し滞在住宅利用を促進する。			
空き家の 利活用件数	むら創生課 すまいる課	サテライトオフィス事業者数	0事業所	3事業所
	家主と交渉し、空き家を住宅やオフィス等に利用する。			
コワーキング スペースの整備	むら創生課	コワーキングスペース 整備件数	2件	3件
	ワーケーションなど多種多様な働き方による関係人口創出の受け皿としてコワーキングスペースを整備する。			
関係人口創出事業	むら創生課 すまいる課	1. インスタグラム、Facebook の情報発信数 2. 西米良ファン全員集合 (LINEオープンチャット 登録者数)	1. 1回/日 2. 350人	1. 1回/日 2. 1000人
	インスタグラム、Facebook、LINEオープンチャットを活用して、効果的な情報発信を行う。			
	むら創生課 すまいる課	1. 転入者数 2. 企業、大学等と連携して新 たに実施する事業数	1. 236人/5年間 (R2～6年) 2. 4事業	1. 250人/5年間 2. 7事業/5年間
ふるさと応援寄附金を通じた村の魅力発信と応援者ネットワーク形成を推進する。村出身者やファンへの活動支援・情報発信を強化する。大学等との官学連携によるフィールドワーク・共同研究の推進する。サテライトオフィス・ワーケーションを通じた都市部企業との関係を構築する。				



村ならではの

# 豊かな産業



# ともに拓く豊かな営み

風土を活かした力強い産業づくり

## 政策分野 2

### 産業

「農林水産業（第1次産業）」「建設業・製造業（第2次産業）」「商業・サービス業（第3次産業）」のすべての産業における新規創業件数の増加を目指します。農業の6次産業化や林業の独立・規模拡大、空き家・空き店舗を活用した新事業開拓、地域資源を活かした特産品開発、体験型アクティビティなど、村に活力を産むすべての産業における創業を目指します。

数値目標	基準値（2025）	目標値（2030）
新規創業件数	2件	10件



### 1 西米良ならではの農業生産構想

- 本村の農業生産環境を踏まえ、循環型、有機栽培等の自然環境に配慮した農業施策を進めます。西米良の特性を活かした複合経営を推進し、農家の稼ぐチカラを高めます。

### 2 遊休農地等を活用したゆず生産団地化及び6次産業化推進構想

- 遊休化している農地を集約し、モデル的に省力化・効率化園地として基盤整備を行い、上記1の構想を実践する生産団地としての再生について調査・研究を進めます。
- ゆずの6次産業化を推進するため、ゆず処理加工のオートメーション化や循環型生産体制の構築を推進します。

政策分野 2

産業

### 3 地域商社等の検討

- 地域全体の経済の活性化や課題解決を目的とした地域商社の機能についての調査・検討を進めます。
- ゆず生産・加工・販売をベースとして6次産業化や地域ブランドによる一体的な地域産品の販売戦略を主としながら、ふるさと納税制度や輸出等を推進し、地域内経済の好循環を生み出し、雇用基盤や安定した所得の確保等を図ります。

### 4 特産品の産地維持

- ゆずは、産地ビジョンに沿って200t、20haの産地維持を目指します。
- カラピーマンは、産地ビジョンに沿って反収8tを目指します。
- 繁殖牛農家の担い手確保を図ります。
- ゆずサイレージを使った循環型農業への転換を検討します。
- しいたけ、たけのこ等の特産林産物、米良糸巻大根、イセイモ等伝統野菜の産地維持に取り組みます。
- ジビエの取り扱いの拡大を目指します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
農業生産構想の 推進	農林振興課	①新規就農者数（研修後の就農者数） ②販路拡大（地域外含む） ③農業経営支援実施件数（経営改善 支援・技術指導など）	①新規就農1件 ②販路数5件 ③支援件数1件	①新規就農2件 ②販路数3件 ③支援件数1件
	農業生産構想に基づき、地域農業の持続可能性を確保し、新規就農者の育成と地域ブランドの確立を進める。			
モデル団地の 基盤整備	農林振興課	モデル団地でのスマート農業の導入	1件	技術導入支援件数 1件
	新たなモデル団地の基盤整備を検討し、新規就農者が定着できる環境を提供する。持続可能な農業経営を支援する。			

## 5 その他の担い手確保対策

- 未婚生産者の結婚対策を推進します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
お付き合い 対策事業【再掲】	むら創生課	マッチング数	0組	5組
	「結婚を良いもの」と思えるイメージづくりや勉強会の開催、価値観の合う人との出会える場づくりを推進する。			

## 6 その他の農産物等の販売対策

- ECサイトを含む販路拡大を推進します。
- 加工品販売を促進し起業支援を推進します。
- 本村の産品を使った商品開発、既存商品の魅力アップを推進します。
- 食の安全と地域経済の活性化を図るため、地産地消の取り組みを進めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
商品開発支援事業 (農産物等)	農林振興課	新商品、既存商品の 販売促進支援件数	6件	15件
	企業等との連携を図りながら西米良の産品を使った商品開発・既存商品の魅力アップを推進する。毎年1個の商品開発を目指す。			

## 7 商工振興対策

- 人口減少を踏まえながら、村民のニーズに沿った商店街の在り方、観光客など村外からのお客様を取り込めるようなサービス展開について検討を進めます。
- 商店街への新規参入や継業への取り組みを支援していきます。
- 空き店舗の利活用を促進します。
- 外貨を稼ぐため、目玉となる新規商品の開発を推進します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
空き店舗の利活用	むら創生課 すまいる課	空き店舗利活用及び 新事業拡大件数	1件	3件
	起業等促進支援金等を活用し、空き店舗活用や既存事業の新事業拡大を推進する。			

商工業振興事業	むら創生課	商工業振興事業補助金等の活用件数	0件	3件
	観光基盤となる宿泊施設の整備や、商業経営継続・発展に必要な施設整備、特産品開発、事業承継を推進し、外資を稼げる強い商業基盤整備を推進する。			

## 8 観光振興対策

- 本村の自然や資源を活かした新たな食や体験型の観光コンテンツを検討するとともに、地球環境にも配慮した取り組みを推進します。
- 村のPR方法・素材を再検討していきます。
- 村内観光の魅力アップに繋げるため、既存施設の魅力拡充や各地区における観光的魅力の創出等による新しい観光拠点の整備とともに、観光施設相互の連携と関係者の資質向上を図ります。
- 関係自治体など周辺地域との連携も視野に入れ、魅力的な観光周遊コースを検討します。
- 災害発生が少ない時期の誘客を図る観光コンテンツを検討します。
- マイクロツーリズム、平日への分散誘客につながる取り組みを推進します。
- ワーキングホリデー制度など滞在型観光について再検討します。
- 村内看板等の設置や、統一・多言語標記、宿泊予約システムの一元化などインバウンドの受入れを見据えた観光客受入れ体制の強化を図ります。
- SNSの活用など時代に合った効果的な情報発信を行い、観光客が情報を収集しやすい環境を整えます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
カリコボースの宿リニューアル終了後の観光消費増加計画	むら創生課	村内の観光消費額の増	8,500千円	14,500千円
令和6年度に温泉宿泊棟、令和7年度にオートキャンプ場とコテージ3棟の新設が完了する。ここを観光拠点とした観光振興を図り、村内観光消費額の増加を図る。				
にしめら四季まつり	むら創生課	観光イベントの入場効果数	127,000人	150,000人
「にしめら四季まつり」や観光イベントを通じ地域の魅力向上を図り、入込客数の増加を目指す。				
保育園留学事業	むら創生課	保育園留学を通じた家族単位での利用者数	0組	年間参加者 25組
保育園留学は、都市部に住む若いファミリー層に来村いただき、1～2週間お子さんを「村立ふたば園」で受け入れることで、ご家族で村内に滞在いただき、子ども主役の暮らし体験。子どもはふたば園にのびのび通い、親はテレワークで働いたり、鮎釣りなどの自然を満喫いただくことで、西米良村のファン（関係人口）になってもらう取り組み。				

東米良連携事業	むら創生課	1. 検討会開催数 2. 周遊コース開発	0回/年 0コース	3回/年 1コース
	神楽や歴史などの文化資源を活かした東西米良連携事業実施に向けた検討会及び周遊コースとしてのパッケージ開発を行う。			
登山魅力強化事業	むら創生課	1. 登山者数 2. ツアー・体験開発数	—	1. 2,000人 2. 5個
	登山者計測手段の見直し、登山ツアーや体験型商品化、広域観光連携による誘客強化。			
観光資源・情報の見える化	むら創生課	数値化しない		
	観光客が滞在・周遊しやすくするためのマップ整備やポイントの表示を行う。インバウンド対応のため看板等へのローマ字表記を行う。			

## 9 新たな産業の創出

- 村民の意欲や活力に繋げるため、起業に対する支援を行います。
- 山間部である村内でも仕事ができる企業の誘致を図ります。
- 高付加価値の観光体験をつくり、稼げる観光施設を目指します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
起業等を促進する事業	むら創生課	交付金を活用した新規起業件数	1件	3件
	産業の振興と村内雇用の拡大に繋がる起業等を促進する。(起業等促進交付金)			
伝統文化資源 (神楽・民話・民謡) の体験プログラム	教育総務課 むら創生課	体験プログラム参加者数	0人	100人
	神楽・民話等の無形文化を「参加型・体験型」プログラムへと再構築し、観光資源として売り出します。			
ガストロノミー (食と文化を結びつける) 体験プログラム	むら創生課	体験プログラム参加者数	0人	100人
	食を通じて、村に残る歴史や文化、地域性を深く味わっていただく体験プログラムを構築し、観光資源として売り出します。			
コワーキングスペースの整備【再掲】	むら創生課	コワーキングスペース整備件数	2件	3件
空き店舗の利活用【再掲】	むら創生課 すまいる課	空き店舗利活用及び新事業拡大件数	1件	3件
商工業振興事業【再掲】	むら創生課	商工業振興事業補助金等の活用件数	0件	3件

ともに紡ぐ

# 豊かな暮らし



# ともにも紡ぐ豊かな暮らし

暮らしやすさ＝いつまでも安心して住み続けられる村であること

## 政策分野 3

### 生活

西米良に住むすべての方が、安心して住み続けることができる村として存続するためにも人口問題と産業における目標達成が重要です。一番多くの施策がある生活分野だからこそ、目標を明確にしました。

数値目標	基準値 (2025)	目標値 (2030)
西米良村が暮らしやすいと感じている住民の割合	76%	90%

<b>関係する 主要な取り組み</b>  	<b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に 	<b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを 	<b>12</b> つくる責任 つかう責任 
	<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を 	<b>14</b> 海の豊かさを守ろう 	<b>15</b> 陸の豊かさを守ろう 	<b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう 

## 1 未来へつなぐ自然環境の維持・保全

### 1 山林の適正管理

- 森林経営管理制度に基づく現況調査等を実施し、適切な森林管理に向けた市町村森林経営管理事業等に取り組みます。
- 森林環境譲与税を活用した森林教育、担い手確保・育成を図ります。
- 公有林施業計画を策定し、計画的な森林施業と適期伐採を行い、入札制度を活用し財源の確保を図ります。
- 2050年の脱炭素社会の実現に向け、二酸化炭素吸収源である森林の適切な整備を推進し、また持続可能な森林の利用に向けて、再造林を積極的に取り組みます。

## 政策分野 3

### 生活

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
市町村森林経営 管理事業	農林振興課	協定締結数	1	3
	所有者の管理が行き届いていない私有人工林について間伐等を実施する。			
森林体験事業	農林振興課	教室開催数	3回/年	3回/年
	将来の担い手確保を視野に入れ、保育園、小・中学生を対象とした森林体験教室を開催する。それぞれ年1回開催する。			
公有林整備事業	農林振興課	皆伐施業量	5.0ha/年	5.0ha/年
		造林施業量	4.0ha/年	4.0ha/年
	公有林の適切な管理を行うため、皆伐・徐間伐・造林を行う。			
公有林施業計画	農林振興課	計画数	0	1
	公有林の計画的施業の推進に資するため、計画を策定する。			

## 2 水産資源と河川環境の保全

- 河川環境の向上を目指すため、森林の多面的機能の高度発揮を推進します。
- 生活排水の適切な処理を推進します。
- 合併処理浄化槽の整備・転換を推進します。
- 合併処理浄化槽維持管理補助金の交付を継続して実施します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
合併処理浄化槽 整備補助	村民課	非合併浄化槽率	11%	6%
	新設・転換整備に対する補助を行う。			
河川美化活動	村民課 建設課	河川美化活動数	1回/年	1回/年
	建設業、小学生など各種団体と連携して河川美化活動を行う。			

### 3 適切な廃棄物処理・ごみ処理

- 独居高齢者のごみ対策について福祉関係機関との連携を図りながら対応を行います。
- 事業所ごみ収集の体制確立と事業所での処理の徹底を図ります。
- 資源ごみのリサイクルを推進します。
- 災害廃棄物などの必要な廃棄物処理体制を確立します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
事業系廃棄物の 分別マニュアル 作成	村民課	マニュアル数	0	1
	分別の厳格化に対応するため、事業系廃棄物の分別マニュアルを作成する。			
災害廃棄物 処理計画の見直し	村民課	計画見直し数	0	1
	災害時の廃棄物処理を迅速に行うため、処理体制の内容について見直しを行う。			

### 4 環境美化啓発の推進

- 本村の自然豊かな誇れる環境を後世まで維持する取り組みを実施していきます。
- ふるさとの環境を守るための空き缶拾いや沿道環境整備等の住民活動を継続して推進します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
清潔検査の実施	村民課	清潔検査実施回数	1回/年	1回/年
	住環境の保全と維持のため、年1回実施する。			
不法投棄 パトロール	村民課	パトロール回数	3回/年	12回/年
	山林や道沿い等不法投棄されやすい場所について森林組合と連携してパトロールを実施する。			

## 2 村民の健康づくりと暮らしやすいむらづくり



### 1 村民の健康づくり

- 村民が生きがいを持って、自立した生活が送れるよう支援を行います。
- 子どもたちに地元の歴史、伝統芸能、食文化を伝承・継承することを通じて、高齢者にやりがいや達成感を感じてもらい取り組みを推進します。
- 「学び」は生活に活力や刺激をもたらすものであり、高齢者が集い、交流を深めながら、幅広い見識を深める学びの場を提供していきます。
- 高齢者の学びの場、発表の場、村民との交流の場を創り、心と体の健康保持・増進を図ります。
- メラスポ各教室において、受講者のニーズに応じ、満足度の高い教室を実施します。
- 生活習慣病の発症・重症化予防のための取り組みを強化します。
- 健診結果をもとにした指導対象者への個別指導や健診未受診者対策を徹底します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
特定健診及び 特定保健指導	福祉健康課	特定健診受診率	84.8%	80%以上
		特定保健指導率	100%	60%
高齢者の医療の確保に関する法律に基づいた特定健診及び特定保健指導を実施する。				
各種がん検診	福祉健康課	肺がん検診受診率	R 6 受診率 19%	30%
		大腸がん検診受診率	// 39.1%	50%
		胃がん検診受診率	// 27.3%	40%
		乳がん検診受診率	// 50%	60%
		子宮がん検診受診率	// 33%	50%
健康増進法に基づくがん検診（肺、胃、大腸、乳、子宮）の実施及び要精密者に対する受診勧奨を行う。				
にしめら イキイキ文化祭	教育総務課	参加者数	集客337人	集客350人
	村民が集い、語らい、笑いが渦巻くイベントとして規模拡大していく。			
メラリンピック	教育総務課	参加者数	集客363人	集客400人
	開催時期の見直しや内容等について検討していく。			
村民ミニバレー ボール大会	教育総務課	参加者数	95人	100人
	運動に親しみ、村民同士の交流を深めることにより、心と体の健康保持増進を図る。			
メラスポ各教室	教育総務課	会員数	197人	200人
	生涯を通じて学ぶ意欲を喚起し、運動に親しみ、村民同士の交流を深めることにより、心と体の健康保持増進を図る。			
あさよむ号巡回	教育総務課	年間貸出し冊数	1,882冊	2,000冊
	村民が多くの本に親しみ幅広い知識を得るなど、学びの場と機会を提供する。			

## 2 西米良診療所施設の維持管理

- 施設の経年劣化により発生する故障等に対して適切な維持管理を行うとともに、計画的な医療機器の更新を行います。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
施設の改修	診療所	屋上(雨漏り)改修	—	完了
	施設の老朽化への対応や医療機器更新を計画的に実施する。			

## 3 医療従事者の人材不足対策

- 医師については、定着医を柱として、県への派遣要請と応援診療・代直体制を継続しながら、医療の質の確保に向けた環境整備等の取り組みを実施していきます。
- 看護師の確保対策を実施し、今後10年間で年代間の職員数の平準化を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
医師住宅の維持管理	診療所	数値化しない	—	—
	医師住宅の適正な維持管理を行う。			
医師確保	診療所	医師2名体制の維持	医師数 2名	医師数 2名
	医師1名は県から派遣いただいているが、県の動向も十分把握しつつ医師の確保を行う。			
看護師確保	診療所	看護師数の維持(会計年度任用職員含む)	看護師 11名	看護師 11名
	今後定年退職者が出てくることから、村外からの通勤者も含め現在の看護師数を維持できるよう通年募集・採用を行う。			
その他診療所従事者確保	診療所	看護助手	3名	5名
		給食調理員	3名	4名
	従事者の高齢化・人材不足を見据えた新たな人材の確保のため、通年募集・採用を行う。			

医療・介護の 人材不足対策	福祉健康課 診療所	奨学金借入数	2人	2人/年
		福祉人材確保支援金の新規 対象者数	2人	2人/年
	医療福祉職の重点確保			

#### 4 高齢者福祉の充実

- 高齢者の地域での生活及び、家族を支える拠点の充実、各種サービスや事業の構築と拡充を図り、いつまでも安心して暮らし続けることができる環境づくりを行います。
- 認知症への正しい理解を深め、適切な治療・対応により健康寿命を延ばす取り組みを実施します。
- 当事者以外も介護福祉の利用者・現場の現状がわかるよう積極的な情報発信に努めます。また多世代交流事業などを通じて、村として高齢者と支援者にも過ごしやすい環境づくりに努めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
高齢者福祉施設の 安定経営	福祉健康課	施設の改修・ もしくは建替え	—	1件
	施設入居サービスの維持を目的に現存施設の在り方を踏まえ、改修もしくは建替えを検討し、更新を行う。			
在宅介護サービスの 充実	福祉健康課	サテライトオフィスの設置	—	1箇所
	村内に在宅介護サービス事業者が無いことから、村外の事業者のサテライトオフィスを確保し、事業者を呼び込む。			
介護予防事業	福祉健康課	検討会の開催	—	1回/年
	予防事業として実施している複数事業を利用者確保・人材確保の観点から一体的実施を検討する。			
高齢者の日常支援	福祉健康課	人材の配置	—	1人
	高齢者の日常生活の困りごとを解決し、相談しやすい体制の整備及び人員配置。			
認知症対策	福祉健康課	村内研修実施数	2回	2回/年
	西米良村版認知症ケアバスの作成や認知症サポーター養成を行う。			

高齢者見守り	福祉健康課	非常通報・相談通報の機械導入	11台	15台
	人による見守りボランティアからICT活用へのシフトを実施し、在宅で安心して暮らせていける環境の整備。			
医療・介護の人材不足対策【再掲】	福祉健康課 診療所	奨学金借入数	2人	2人/年
		福祉人材確保支援金の新規対象者数	2人	2人/年

## 5 障がい者サービスの充実・就労支援

- 総合相談体制の構築・サービス提供体制の構築を図るとともに、災害時における情報伝達や避難体制を強化していきます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
切れ目のない支援体制の整備	福祉健康課	障がい福祉サービス利用周知	1回以上	2回
	相談から終結までの流れを図式化し、周知する。			
障がい福祉への関心と理解を深める	福祉健康課	福祉関連イベントの実施	2回	3回
	サービスや制度、関係機関が分かる冊子等を作成し、地域や学校等に出向き説明会や学習会を行う。			
安心して暮らせる生活基盤の整備	福祉健康課	名簿作成	0	1
	避難行動要支援者名簿（障がい者版）を整備する。			

## 6 子育て環境の充実

- 家庭を中心に地域、各教育機関等がこれまで以上に相互に連携協力しながら、0歳から15歳までの一貫した教育を行います。
- 村内で安心して妊娠・出産・子育て期を過ごすことができるよう、相談機関を設置するなど、環境づくりを推進します。
- 地域の中の学校として、学校と地域が連携協働をさらに深め、特色ある教育の充実を図るとともに、教育に係る経済的負担軽減や各家庭の支援を行います。
- 子どもの居場所及び子育ての拠点づくりを目的に、より自然に親しみやすい、本村ならではの森林や川を活かした公園を整備します。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
児童クラブ運営	教育総務課	支援員・補助員の数	2～4人	3～4人
	全児童の児童クラブ受け入れを目指す。放課後や長期休業中にも開設し、子供の安心安全な居場所づくりや子育て支援の充実を図る。			
地域とともにある 学校づくり事業	教育総務課	協議会開催	2回	2回
	学校運営協議会の開催により、放課後対策の在り方や学校と地域の連携・協働について協議し、地域住民の意見を踏まえた教育活動の充実と地域と主にある学校づくりを目指す。			
公園拠点整備	教育総務課	公園整備	—	1箇所
	急傾斜地やがけ地等制約がある土地が多い村内において、用地を確保することは容易でない。現在ある健康増進広場や小川城址公園等の有効活用を推進するなどし、新たな公園整備の必要性等を検討する。			

## 7 地域コミュニティの維持

- 自治公民館組織は、生涯学習の推進と村づくりの核となる組織であり、主体的な活動の充実と公民館同士の連携を推進します。
- 村民アンケートによる「支え合い助け合いができる村」「住民が互いに助け合える村づくり」の実現のために、村民にできる行動の実践を推進します。
- 地区担当班の積極的活用と交流を図るとともに、制度の在り方について検討を行います。
- 役場と住民とのつながりを大切にし、地域に開かれた行政の継続を図ります。
- 移住者が村になじみやすい環境を整えるよう努めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
村民の福祉意識の 醸成	福祉健康課	村広報による周知	9回掲載	10回掲載
	福祉の村づくりのために村民にできる行動を示す。広報誌等で周知を行う。			

## 8 暮らしやすい村づくりの推進

- 本村の人口を維持していくためには、まずは村民が心からこの村に暮らしたい、楽しいと感じることが必要です。
- 自分たちの暮らしをよくするため、楽しみ、地域の活力や「やる気」を育てるため、本村の賑わいや魅力創出につながる取り組みを支援します。

### 3 郷土を愛し次代を担う人を育む教育・文化



#### 1 認定こども園教育の充実

- 保小中が連携し、一貫した教育活動の充実を図ります。
- 複雑多様化する育児不安等への相談体制を構築します。
- 子ども園の地域交流事業の充実を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
保小中一貫教育連携会議の開催	教育総務課 福祉健康課	会議の開催	2回/年	2回/年
	保小中で連携し、年度ごとに具体的な共通実践事項を定め実践する。			
子ども園地域交流活動の充実	福祉健康課	四季に応じた交流活動	7回	5回
	四季を感じられる地域交流活動を取り入れる。			

#### 2 単式学級の維持

- 今後、入学者減少により複式学級は避けられない状況となるため、小中学校教師の相互乗り入れ及び施設一体型小中一貫校の設立に向けて検討を進めます。
- 学校施設の老朽化等を踏まえ、一貫教育の検討に併せて今後の学校施設の在り方を議論し、幅広い視野から検討するとともに、財源の確保についても検討を進めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
学校の在り方及び建替検討	教育総務課	財源確保のための基金積立	—	基金積立1/2
		授業乗り入れ人数	3人	3人
	検討委員会で協議を進め方向性を固めるとともに、必要な財源確保を図る。			

### 3 各種インストラクターの村内人材養成

- 教育・スポーツ・文化について、村内外の講師養成及び活用を目指します。
- 児童・生徒の体力向上のため指導者としての資格取得を奨励し、村内での体力づくり推進を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
メラスポ講師育成	教育総務課	各教室における講師の村内人材の育成	5人	7人
	各教室（書道、英会話、茶道、民謡、神楽）の講師については、村内人材の育成を図る。			
部活動及び放課後子ども教室指導者資格取得の推進	教育総務課	指導者資格取得者数	10人	10人
	放課後子ども教室における村内有資格者を確保するため、指導者資格取得を推進する。（補助、旅費、費用補助等）			

### 4 郷土愛にあふれ国際感覚を身につけた人材の育成

- 西米良村を「学びの対象」及び「学びの場」として捉え、中学校卒業までを見通して系統性・一貫性のある自然環境、歴史・伝統、産業・生活などの学びを通して、本村の未来や自分の生き方について考え、生涯にわたってふるさとを愛する心と態度を育てます。
- 世界に目を向け、豊かな国際感覚と多様な価値観や経験を持つ村民の育成を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
「ふるさと西米良学」の実施	教育総務課	資料集の改訂	—	R10年度完成
	西米良村での自然環境、歴史・伝統、産業・生活などの学びを通して、西米良村の未来や自分の生き方について考え、生涯にわたってふるさとを愛する心と態度を育てる。			
英語教育の充実	教育総務課	英語が楽しいと感じる児童生徒の割合（アンケート実施）	—	8割
	臆することなく英語を話せるよう、英語に触れあう場の増加による英語力の育成に保小中で連携して取り組む。英語教材の導入や英語教師、ALTとの連携を図る。			

## 5 教育の情報化推進

- 本村では、教育におけるICT環境整備を推進しており、すでに1人1台タブレット端末を配置し授業で活用していますが、国の事業による1人1台タブレット端末配置に併せて、学校と家庭両方におけるタブレット端末を活用した学習の充実を図ります。
- ICT機器を適切に活用し、山間部に居ながら、有識者や大学生などとオンラインで結びいつでも、どこでも最先端の学びの提供ができる環境づくりを行います。
- ICT機器を活用した学習指導のさらなる充実を図り、すべての児童生徒の情報活用能力の育成に努めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
タブレット端末の活用	教育総務課	研究公開での発表の場	1回/年	1回/年
	日々の授業における学校用タブレット端末及び家庭用タブレット端末を効果的に活用し、情報活用能力を育成する。活用率100%を維持し、年1回その成果を発表する。			

## 6 伝統文化の継承

- 菊池の心を学校経営に活かし、地域の中の学校として特色ある教育活動の充実を図ります。
- 村内に残る神楽を維持していくため、後継者育成として文化的価値を高める取り組みを継続して行います。
- 「ふるさと西米良学」等の実施により、西米良村での自然環境、歴史・伝統、産業・生活・文化、特産物などの学びを通して、西米良村の伝統文化を継承していきます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
「ふるさと西米良学」の実施	教育総務課	地域伝統芸能の発表の場 (米良太鼓、神楽体操、民話語り部)	2回/年	2回/年
	西米良村での自然環境、歴史・伝統、産業・生活などの学びを通して、西米良村の未来や自分の生き方について考え、生涯にわたってふるさとを愛する心と態度を育てる。			
メラスボ神楽・民謡教室	教育総務課	参加者数	32人	40人
	村内に残る神楽や民謡を継承するための後継者育成を行う。			

## 4 豊かな暮らしを支える基盤整備



### 1 村営住宅の維持管理

- 老朽化している住宅の更新や住宅不足状況に即した住宅整備を行います。
- 入居者が最低限快適に生活できるような既存住宅の適正な維持管理と運用を行います。
- 山村定住住宅の取得促進を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
村営住宅長寿命化計画策定	村民課	計画の見直し	—	1
	村営住宅の長寿命化を図るため長寿命化計画を策定する。			
既存住宅修繕	村民課	給湯器交換	—	32戸
	給湯器の交換を計画的に実施する。村営住宅の修繕は必要に応じて随時実施する。			

### 2 上水道・下水道の整備

- 村民の住環境向上のため、公営の給水区域を拡張していきます。
- 水質と施設の適切な維持管理を行います。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
給水区域の拡張	建設課	給水人口	657人	680人
	高齢化による給水人口の減少を加味し施設規模等を検討していく。			

### 3 高度情報通信網の整備

- インターネット回線・通信環境については、村の光ファイバ関連設備を完全民営化し通信環境の拡充を図ります。
- 携帯電話各メーカーエリア拡大と5G環境整備の要望を進めるとともに、ローカル5GやLPWA等の可能性を検討し、必要な施策を実施していきます。
- 耐用年数が経過するCATV関係機器の整備を行います。
- 4K8K放送が視聴可能な環境の整備を行います。
- IP告知端末（ホイホイライン）の新たな活用法の検討を進めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
光ファイバ 関連設備の民営化	むら創生課	民営化率100%	0%	100%
	施設の民営化により、更に快適なインターネットができる体制とする。			
CATV機器更新	むら創生課	機器更改100%	0%	100%
	民間企業と連携し、機器更改を完成させる。			

### 4 施設老朽化対策

- 学校及び社会教育施設の老朽化や立地上の問題が出てきており、施設全体の必要性、活用方針、小中一貫の方向性などを踏まえて、長寿命化のための大規模修繕、移設、統合、建て替えの方向性を検討します。
- 基金の設立など、財源確保を検討しながら、コミュニティの中心となる施設維持を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
学校及び社会教育 施設の適正な管理	教育総務課	改修計画作成	—	1
	施設長寿命化のための大規模改修、移設、統合、建替えの方向性を検討し、必要な施策を実施します。			
健康増進広場の適 正な管理	建設課	防球ネット更新	—	更新完了
	防球ネット整備やグラウンドの芝育成など必要な環境整備や維持管理を行う。			

## 5 国道・県道改良促進

○関係自治体と連携しながら、国道・県道改良促進の強力な要望を行っていきます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
改良要望活動	建設課	数値化しない	—	—
	期成同盟会を通じた要望活動を行い、必要な道路予算を安定的に確保を行う。			

## 6 村道・林道・農道の維持管理

- 舗装及び道路施設等の計画的な更新・改修を行います。
- 吹付方面の老朽箇所や落石対策を継続していきます。
- 林業振興を図るため、林道の開設を推進します。
- 橋梁点検の実施による計画的な補修を行い、橋梁の長寿命化を図ります。
- カラー舗装または歩道設置による歩行区間と車道区間の整理により歩行者の安全対策を進めます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
村道舗装補修工事	建設課	村道舗装補修工事実施率 対象舗装延長 L=3,000m	—	50%
	次の路線の舗装補修工事を行う。 ■村道山中線 ■村道狭上線 ■村道八重公民館2号線 ■村道鉦山谷古川線 ■村道児原線 ■村道一番之久保線 ■村道横野線 ■村道下鶴線 ■村道碓石線 ■村道縄瀬線 ■村道村所2号線			
橋梁補修工事	建設課	橋梁経過視測 対象橋梁数 62橋	健全率100%	健全率100%
	策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づいた橋梁補修工事を行う。			
村道舗装工事	建設課	施工延長240.0m ・春之平線L=80.0m グリーンベルト ・村道1-1号線L=80.0m 舗装改修 ・村道1-3号線L=80.0m	—	100%
	従来のカラー舗装による区分方法を改め、区画線の設置により歩道と車道を明確に区分し、安全性の向上を図る。			
林道開設工事	建設課	林道開設率 対象計画延長 L=26,165m	—	95%
	林道開設を推進する。長谷・児原線/小川・棚倉峠線			

林道改良工事	建設課	林道改良工事実施率 対象改良延長 L=4,500m	—	70%
	道路拡幅、舗装、法面保護等の改良を行う。 ■長谷・児原線 ■小川・石打谷線 ■小川・棚倉峠線 ■上米良・大平線 ■米良・椎葉線 ■天包山線 ■小山重線 ■横野・河口線 ■椎葉線・合崎線			

## 7 公共交通の維持

- 貨客混載事業の継続など、路線存続の意義を高め、宮崎交通バス路線の維持を図ります。
- 公共交通を維持していくため、バスの利用促進を図ります。
- 村営バスの適切な運航を行うとともに、高齢者や障がい者が利用しやすい環境を整えます。
- 村民の移動の足を確保するため、民間の交通事業者のサービス継続を含めた検討を行います。

具体的施策	担当課	今後の方向性	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
宮交バス利用補助事業の継続	村民課	継続	貸し切りバス利用件数	4件/年	5件/年
	宮交バス友の会等補助事業の広報に力を入れ利用促進を図る。				

## 5 安心・安全で自立した村づくり



### 1 消防団組織の再編

- 分団制の導入による地域の連携及び支援団制度の活用により、地域の消防力の維持・継続を図ります。
- 人口減少の状況を踏まえ、概ね人口の10分の1程度の団員数確保を目指します。
- 各地区自主防災組織と消防団との連携により防災体制の強化を図ります。
- 防災や消防に係る整備・資機材を更新、新規整備し、村民の安全確保や消防団活動の安全な遂行に資する環境を整えます。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
自主防災組織の体制の再構築	総務課	訓練の開催(継続) 自主防災組織の再構築 住民への研修会	1地区1回/年 館長会で研修	1地区1回/年 館長会で研修
	想定できない災害への対応。公的支援が届くまでの準備。 自助・共助の意識の向上を図る。			

### 2 災害・防災への対応強化

- 建物や道路について、有事の際、安全に使用できる施設要件を満たすために必要な諸整備を進めます。
- 避難施設においては、機能を高めるため、必要な資材備蓄等の配備、無停電装置などの整備を進めます。
- 道路計画を策定し、災害に強い基盤整備の実施を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
避難所整備事業	総務課	発電設備の整備	0箇所	2箇所
	災害による孤立に備えた避難所の整備を行う。			

避難対策情報提供事業	総務課	ハザードマップ見直し情報の反映	—	見直し1回/年
	災害危険箇所等の情報の変更を確認し、出水期前までには改訂版をHPに掲載する。気象情報・防災情報等の見直しへ速やかに対応する。			

### 3 行催事の再検討

- 行事・イベント規模について、村の現状に合ったものに移行します。
- 地域の活力増進に資するため、各地区や団体等が行う事業を支援し、充実を図ります。
- 行政主催の会議について、同日実施や廃止など実施方法の効率化を図ります。

### 4 健全な財政運営

- ムダ、ムラを省いた予算執行、事業計画、業務遂行を行います。
- 大型事業については、将来的な負担を最小限としながら、起償の効果的な活用や基金等の積み立てなどにより、実施していくものとします。
- 適切な村政運営のため、職員の定員管理や研修等の実施による資質向上を図ります。

### 5 ふるさと納税の拡充

- ふるさと納税額の増額を図る取り組みを推進します。
- 本村の産品を使った商品開発、既存商品の魅力アップを推進し、ふるさと納税事業への取り組みによる村内事業者のレベルアップを図ります。
- 地域商社などの外部委託について検討を進めます。
- 企業版ふるさと納税を活用し、企業と連携した施策の推進を図ります。

具体的施策	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2025)	目標値 (2030)
返礼品拡充	すまいる課	ふるさと納税額	10,000千円/年	1億円
	ふるさと納税者への返礼品数を増やす。			
企業版ふるさと納税の受入れ	すまいる課	企業版ふるさと納税	3,000千円	7億2千万円
	企業版ふるさと納税の受け入れ体制を整える。			

### 6 DXの推進

- 行政DXとして、効率的で柔軟な行政運営を目指します。
  - 村民DXとして、安心して便利な暮らしの実現を目指します。
  - 観光DXとして、にしめらの魅力を全国に発信します。
  - 防災DXとして、命と暮らしを守る備えの強化を行います。
  - 医療福祉DXとして、見守りをつながりのハイブリッドを目指します。
  - 教育DXとして、小規模だからこそ実現できる教育の充実を目指します。
  - 産業DXとして、農業・林業のスマート化、および高付加価値化を目指します。
  - 地域交通DXとして、ライドシェアの導入による移動手段の確保を行います。
- なお、DXの推進にかかる詳細なKPI等については、「西米良村DX推進計画」において定める通りです。

# 1,000人が笑う村

西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略

---

発行 宮崎県西米良村

〒881-1411 宮崎県児湯郡西米良村大字村所15

TEL.0983-36-1111

FAX.0983-36-1207

E-mail:karikoboze@vill.nishimera.lg.jp



西米良村

nishimera village with the 1000 smile